

第 8 回川崎市史市制 100 周年記念版編集懇談会 会議録（摘録）

- 1 日 時 令和 8 年 2 月 5 日（木）午後 7 時～午後 8 時 30 分
- 2 場 所 川崎市総合自治会館 大会議室 1
- 3 出席者
 - (1) 委員 阿久津委員（オンライン参加）、大城委員、大島委員、落合委員、嶋田委員（オンライン参加）、鈴木（ひ）委員、反町委員、高田委員、竹内委員、中村委員、にしにし家委員、羽賀委員、福森委員、望月委員
 - (2) 事務局 総務企画局公文書館：相原館長、堀切担当係長
TOPPAN 株式会社：浅井、鶴岡、吉村、中村
株式会社トップノック：片岡
市史だよりライター：早川
株式会社アーク・コミュニケーションズ：渡部、佐藤
- 4 次 第
 - (1) 開会／趣旨説明
 - (2) 書籍の購入特典について
 - (3) 「人物史」の取材進捗について
 - (4) 次回への議題提示
 - (5) 総括／次回案内
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 なし

（次第一） 開会／趣旨説明

相原館長

皆さま、本日は年度末に向け大変お忙しい中、川崎市史市制 100 周年記念版第 8 回編集懇談会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

前回は、本の広報施策についてお伺いしましたが、今回はその流れを汲んで、本の特典についてご意見を伺いたいと考えております。次回以降は、かなり作り込みが進んでおりますので、本の中身のある程度お見せしながら、またいろいろなご意見をいただきたいと考えております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（堀切）

事務局から先日の会議録の件では、鈴木委員には大変失礼いたしました。よくよく確認した上で、先日公表させていただきました。今回の第8回に関しましても、会議録を作成させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、この後は片岡さんからお願いいたします。

（編集注 意見交換の参考資料として、新修福岡市史シリーズ1～3を委員席の周辺に配置）

事務局（片岡）

よろしくお願いいたします。温かい議論を進めていければと思います。

今日は本当にアイデアを出し合っただき、和気あいあい会話ができればと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。浅井さん、いかがでしょうか？

（次第一2） 書籍の購入特典について

事務局（浅井）

それでは、よろしくお願いいたします。本日は第8回の編集懇談会にお集まりいただき、ありがとうございます。

お手元の資料ですが、本日お配りしているのは、事前にお送りしたものと一緒のようですが、「書籍購入特典のアイデアについて」という資料になります。そして、1枚目のほうが、前回もご説明させていただいた、令和7年度の市民アンケートから、特典やこういったものが本に付いていると良いという意見を抜粋したのになります。

こちらは市民の皆さまからお出しいただいたアイデアでして、めくっていただいたところが、本日は委員の皆さまから、さまざまなアイデアをいただきたいのですが、そのアイデアをいただくきっかけや、源泉になるようなものとして、事務局で具体例を挙げさせていただいた資料になります。こちらをきっかけにご検討いただき、これまでのご経験の中で「これは良いアイデアだな」と思われたものがあれば、そちらをご紹介いただきたいです。

これらのアイデアを、「物品類」、「クーポン類」、「体験型」という大きく3つのカテゴリーに分けることで、議論がより活発になるのではないかと考え、ご提示させていただきました。

本日は、この「書籍の購入特典について」がメインの議題となりますので、ここで60分間しっかりお時間を取らせていただき、終わりの方では「人物史の取材進捗について」のご報告と「次回への議題提示」、そして本日の総括とさせていただきます。それでは、早速よろしくお願いいたします。

事務局（片岡）

それでは、私からもよろしくお願いいたします。まず、先程、浅井さんから話が

ありましたが、特典などの部分について、しっかりお話を伺いたいです。お話と申しますか、これまでのご経験なども含め、簡単に言いますと「あった方が良い」といった観点を含めて、お話を伺っていただければと思っております。

事務局（浅井）

すみません、一つお伝えするのを忘れておりました。失礼します。

この購入特典というところがありますので、本を購入していただきたいというところ（目的）があるのですが、前回、書籍のPRを考えていただいた時にも（議論が）あったように、発刊時点で市民はこの書籍にどこでアクセスし、知ることができるかという疑問があると思います。前回から今回までで検討したところですが、発刊時にはまず書店に並ぶ予定です。同時に、図書館にも入れ、図書館では他の図書と同様に本の内容が読める予定です。図書館は、リアル図書館、電子図書館ともに、と想定しています。読みたいと望めば図書館でも読める状況と一旦捉えていただき、今日考えていただく特典として、どのようなものが付いていれば、「よし、手元に買ってみよう」と思えるかというところ（観点）でアイデアをいただけたらと思います。

鈴木（ひ）委員

基本的に、（本の）購入は決定という理解でよろしいでしょうか。

事務局（浅井）

はい。購入いただける状況にするというのはおそらく決定です。

鈴木（ひ）委員

この本の価格は、まだいくらぐらいか分からないのでしょうか。

事務局（浅井）

いくらぐらいかはまだ定められていませんが、今のところ福岡市さまの本（「わたしたちの福岡市」）が 2,000 円で販売されていることも踏まえ、事務局としましてはこのあたりかなと捉えています。ターゲットプライスとしては、福岡市さまのもの、2,000 円前後を想定しておりますが、未定でございます。

事務局（片岡）

ありがとうございます。今、金額の話もありましたが、景品などに詳しい方がいらっしゃいましたら、景表法（不当景品類及び不当表示防止法）で定められている（商品価格の）何パーセント以内という話も詳しく言いますと色々あると思いますが、一旦、価格も定まっていない状況ですので、まずは風呂敷を広げ、こんな特典が付いていたら人の心が動くのではないかという視点から、いろいろなお話を伺えればと思っております。

最初にお話ししたしましたが、今日の流れとしましては、基本的にお名前順でお話を伺っていただければと思っております。

伺う際に、このパネルに書いてあるのですが、「つい購入してしまった」や、「心が

動いた」という特典が、ご経験の中である場合は、その経験からのアイデアは青字でこちら（ホワイトボード）に記載していきます。

逆に、「あったら良いな」と思う特典の場合は赤字で記載していきたいと思います。先ほどおっしゃったように物販系やクーポン系、体験系などに振り分けていきますので、必ずしも両方で、しかも3種類にお答えいただかなければいけないというわけはありません。あくまでご自身のご経験などの中から、「こんな特典で実は購入したのですよ」とか、「こんな特典があったら良いですね」と思ったものがあれば、ぜひご意見をいただければと思います。また、こちらは1つに限らず、2つ、3つでも問題ありませんので、お話を伺っていただければと思います。

それでは、福森さんからお伺いできればと思いますが、購入してもらおうという観点で考えた時、景品としてどのようなイメージのものがありますか。

福森委員

オリジナリティがあったら良いと思うので、あまり市販のものが景品ですと、きつと面白くないのではと思って、オリジナルのものがあれば良いと思います。

対象を誰に定めるかという要素もあるかと思うのですが、最近、市民活動団体の方と話したときに、その団体ではボランティアの学生に図書カードを差しあげているそうです。「図書カードですか？今の学生さんって図書カード喜びます？」と聞いたら、文房具、そして（配布した資料の）ここにもありますが、ボンボンドロップシール（編集注 近時、流行している樹脂製のシール雑貨）などの社会現象にもなったシールを本屋で買えるから、男の子も女の子も図書カードが嬉しい。図書カードは有効なのだと思いました。

もう少し小さい子ですと今でも缶バッジは人気です。オリジナルの絵柄の缶バッジが人気で、それも丸形ではダメです。星形とか稲妻形とか、そういう他の人と違うのが、凄く（感性を）くすぐるらしいのですよ。持ちたいという、持っていると自慢できるという（感性）ですね。その団体の方に聞いて、「すごいですね」と思いました。

あと、各区のスポーツセンターを運営されているNPOの方も、地元の飲食店のクーポンを特典に付けたら会員数がドッと増えたと言っていました。けれども、クーポンですと期間や期限を定めないといけないのではと思うので、大変だろうと思います。どちらにしろ、オリジナリティがあるものが良いかなと、川崎らしさ（を感じるもの）が大事だと思います。

川崎区役所の地域振興課さんが、昔、かわさきの宝物ということ（テーマ）で、ジオラマ風のペーパークラフトを配っていました。工場群とか、昔の川崎駅前で、京急が地面を走っていた（時代を再現したもの）とか、そういうシーンをシリーズで作っていて、良いなと思いました。そのような川崎らしい景品（が良い）かと思います。

事務局（片岡）

ちなみに、福森さんはどちらを購入したいですか？

福森委員

雑誌の付録とかで、今、逆に付録の方が豪華というものがあるではないですか。ああいったものに惹かれます。ちゃんとした自動販売機のおもちゃが作れるみたいな、自分でガチャガチャが作れるとか、そういうのに（感性が）くすぐられます。

事務局（片岡）

大人も楽しめる（景品が良いですね）。ありがとうございます。

アイデアがどんどん出てきますので、後ろの方で発言すると大変です。（新しいアイデアが）なくなる可能性高いです。続いて反町さんお願いいたします。

反町委員

それでは、順番に（アイデアを話して）いきます。物品類は、ここに出していただいているものは、もう定番のもので、どれでも誰にでも、ある程度受け入れられ、喜ばれるものだと思います。その中で、デザイン次第かなと思うものもすごくありますが、例えばエコバッグにしても、特にデザインを色々詰め込もうと思えば詰め込めるものですし、例えばクリアファイルなどは印刷物のようなものなので、文字情報も入れようと思えばすごく入れられるという点もあるのかなと。ただ、それが必要かというところと、とにかく全般的には、やはりオリジナルのもの、オリジナリティを出した内容やデザインのものにしたいというのが、大前提かなと思います。

あと、その中で、今回はこういう書籍の特典ということですので、その特典の内容が本の内容とリンクしたようなものであると面白いかなと思いました。具体的には、例えば（資料の）7番のスタンプ帳や御朱印帳のようなもの、これが例えば本の内容をさらに補完するというか、参加型になるのか、この本を見ながら実際に回っていくことで、より本の内容を楽しめるようなデザイン、そういう機能を持たせるのも面白いかなと思いました。

物品はこのくらいにして、クーポン類は、これもあって困る人はいないと思いますので、どれでも良いと思います。私は商店街の代表として来ている立場でもあるので、商店街で使えたら、それはすごく良いと思うのです。でも、実際は色々手続きやシステムのところで簡単ではないなという気はします。

事務局（浅井）

実際に本を持って来たら、何かが受けられるということをお願いした場合、どれくらいのお店や飲食店さんがご協力いただけることが多いのでしょうか。

反町委員

やり方次第なのですが、私の母体といいますか、籍を置いている団体の1つが川崎市商店街連合会といたしまして、川崎全市7つの区にある商店街連合会の全部の会です

ので、そこで全体の統一的な連絡のお願いや協力、参加のお願いをした場合、店舗数的には目標的な部分も含め、2,000店舗くらいが使えなければいけないのではと思います。

ただ、実際には難しいです。商店街ごとにこういうものに参加することに対して様々な声もあります。現実問題として、会長さんがそのような話を持ち帰り、自分の商店街の皆さんに周知しても苦労されるところもあります。そうならないように、場合によっては私の方で頑張りたいと思います。

事務局（片岡）

でも、各店舗さんがそのクーポンの（費用）負担をするのか、いわゆるあの時（2020年以降）のドラえもんがデザインされた地元応援券のように行政から配布されるのか、それによっても（条件が）かなり違ってくると思います。

反町委員

そうですね。商店街の各店舗の立場ですと、リスクがあるものは進まないと思います。

事務局（片岡）

そのバランスを上手に見た上で、どのようなクーポンが発行できるのかというところがあります。

反町委員

それで、今、私は全体について話してしまいましたが、逆に川崎全市の中で、特にこういった取り組みに積極的に参加できる商店街さんは限られています。やはり非常に積極的な商店街さんというのは存在します。そのような商店街さんはイベントも非常に多く開催されており、地域の取り組みや川崎市の方向性にも非常に敏感に対応されるタイプの皆さまです。その時には私から「こういうふうにやりたいのですが」と説明してみるのも一つです。商店街さんとして動いてくれるかもしれません。

事務局（片岡）

その時はぜひ（ご協力をお願いいたします）。

反町委員

もちろんです。最後に、体験型があれば良いかなと。この読者限定のイベントのところはすごく良いなと思いました。川崎市に対してコアなファンの方は、こういうものをすごく喜ぶかなと思います。ただ、特典はそもそも少しでも多くの方に買ってもらうためにという前提で話しているところがあると思うので、コアな方は特典がなくても買うのかなとちょっと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。それでは、次に参ります。

鈴木（ひ）委員

大きく2つあるのですが、まず1つ目がクーポン券のところ、やはり飲食店向けが良いのではないかと思います。例えば、フロンターレの会員証とかを見せると、ラーメンのトッピングが1つ付くとか、あのようなイメージなのかなと思っています。本を見せると、ちょっとしたおまけが付くみたいなものは、やれるところはやれたら良いなというのがあります。

あとは、お話を伺っていて思ったのですが、それを受け入れる側にとってメリットがないと、結構、ハードルが高いだらうと思います。いかにウィンウィンの関係を作っていくかだと思うのです。

多分、体験型になるのでしょうか。例えば、本の中に載っていることが前提にはなりますが、フロンターレとうまく調整して、本を持っていけば選手のサイン会に参加できるとか、そのような、影響力がありそうで、かつ協力いただけそうなところ、そちらにとってもメリットがありそうなところ。そういうところなのかなと思っています。

本は本で、おそらく魅力を感じる人は買ってくれると思うのですが、そうでない人は、例えばうちの娘は Snow Man（編集注 男性アイドルグループ）が好きなのですが、Snow Man のグッズが欲しいから「紅茶ドリンク」を買う、という感じです。

はっきり言いますと別に「その紅茶ドリンク」が欲しいわけではないのです。

だから、もう少し何かフックになるポイントが、その中から出てきたらと思います。ちょっとコンテンツが分からないのですが、例えばフロンターレだったら、そういうことがあると良いなと思いました。以上です。

事務局（片岡）

まさにおっしゃる通りで、私はよくビール系のプロモーションを実施するのですが、6缶パックにベタ付けというのがあります。あれが一番売り上げを大きく伸ばすのです。やはり、このような「持っていったらもらえる」とか、Snow Man の話もそうですが、そういうもの（要素）があると良いなと思っています。

少し被せる形になってしまいますが、ちょうどXリーグさん、アメフト協会さんなどから動員数が足りず困っているような相談を受けました。川崎には富士通さんがあります。例えば、そのような足りていないところとうまく連携して、持っていったらサインがもらえる、あちらもそれでウィンですし、こちら側もそこで買ってもらえる、そういったウィンウィンの環境を作るのが良いと思います。ぜひ、そのあたりを検討していきたいと思っています。ありがとうございます。

大城さん、お願いします。

大城委員

私は都市計画などの仕事をしていましたので、マニア目線ですが、航空写真とか全

体図みたいなのは、大きいのが好きです。本ですとどうしても小さくて、マニアにとっては（情報量が）足りないのです。マンション販売のチラシに航空写真が載っていると、じっくり見てしまうタイプなのです。年表とかも、ページをめくらずに、全体を一度に見たいのです。それで、川崎市の全体が見えるイラストマップみたいなものがあったら、買ってしまいますね。

事務局（片岡）

この特典を何と書けば良いですかね？

事務局（浅井）

「大判ポスター付き」みたいなものでしょうか。

事務局（片岡）

それは、例えば「本の中の小さいものが、大きくなっているよ」みたいな初回限定版にはその大きいものが付いてくる、というイメージですか？

大城委員

そうですね。飾っておきたいですね。

小学校の教室にも貼ってありそうなイメージです。

事務局（片岡）

それは、本の内容よりは、やはり航空写真とか（のイメージですか）。

大城委員

航空写真など、全体感（が分かるようなもののイメージです）。川崎市は細長いので、意外と全体を見かけたことがなく、地図はあるのですが、地図ではなく、生き生きと人がいるような写真が一番良いと思います。写真で表現するのは難しいのですが、イラストマップなら私は欲しくなります。小学校の教室に貼って、学校がここに写っているみたいなのを、みんなで眺めているのが良いなと思います。

この本が出版された時に「小学校4年生だったな」と思い出してもらえるような、それが私は好きです。ずっと（付録に）付けておくのは大変だと思いますので、初回だけ付けるのが良いと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。確かに初回だけです。

今、ふと思い出しました。昔、東京駅の待ち合わせ場所の「銀の鈴」の床はそうでした。江戸時代の地図がすごく大きくて、私の地元は江戸時代に海だったことを知って、衝撃を受けたことがありました。サイズにもよりますが、やるなら結構大きくしたいですね。絨毯くらいのサイズで。

大城委員

作るなら、大きく駅のところで（展示などが）できるかもしれないです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。それでは、落合さんお願いします。

落合委員

もう言われてしまったのですが、私自身は御朱印帳を集めていますので、やはりスタンプラリーみたいなもので、まさに今回の市史にあるので、地図番号が1、2、3、4というのがあって、それを全部スタンプでクリアしたら、さらに（次の場所へ）向かえるとか。そういう仕掛けだと、普通に良いかなと少し思いました。

あと、個人的には、結構、教材などで色々な歴史の写真なども扱うことが多いので、デジタルの、要するに写真が使えるようなCD-ROMなどの何かが付いていると、私の中では便利ですが、一般の人はあまり欲しいと思わないかもしれませんが、私はそれが良いなと思っています。

あとはまさに、（条件を）クリアしたり、なにか（行動を）したりしたらクーポン券をもらえとか、確かにそういうジョイントがあると良いなと思います。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。1つお伺いしたいのですが、スタンプはやはり紙というか、リアルの方がデジタルよりテンションが上がるのでしょうか。

落合委員

基本的に施設にスタンプなどが置いてあって、そこの受付の人にスタンプを押してもらうということもありかと思いますが、ずっといろいろな場所を回るということですね。

それは逆に、その施設の個性みたいなものがあると良いと思います。駅などにも良いと思います。協力していただける人がいますから。要するにテキストではなく、市史を見ながら行くことで「これはこうなんだ」といった感じでやれると、良いなと単純に思いました。

事務局（片岡）

あくまでリアルということですよ。ちゃんと判子として押されること。

行ったらLINEスタンプがもらえるみたいなことは、やはりテンションが上がらないという感じでしょうか。

落合委員

LINEスタンプは僕がちょっと世代的にあれですけど。御朱印は、筆で何月何日と（日付を）書いてもらうのが一番ありがたい、みたいな感じでいただいているのですが。

事務局（片岡）

すみません、ここは一瞬だけ発散したいのですが。たぶん一番若者の気持ちに近い

ところで。(羽賀さんのご意見をお聞きしたいです。)

今すぐ若者はデジタルに飽きて、もう1回リアルに回帰しているとよく言われているじゃないですか。どうでしょうか、いわゆるデジタルマップ、その場所へ実際に行ったらポケモンGOのようにデジタルで(何か)当たるみたいなものの場合、もらったときのテンションはリアルとデジタルが一緒なのか、やはりそこは違うよね、そういうところはどう思いますか。

羽賀委員

私、個人的には、アナログの方が全然テンションは上がります。

デジタルのスタンプラリーはあまりやったことがないのです。

事務局(片岡)

そうですね。そこはみんなそうなのですね。

事務局(浅井)

私はデジタル(スタンプラリー)もアナログもやっています。駅のスタンプラリー集、エキタグ(編集注 駅などに設置されたNFCタグにスマホをかざし、現地訪問の記録としてデジタルスタンプを集めるサービス)をデジタルでやっていて、リアルもやっているのですよ。リアルのスタンプ帳も持っていて、せっせとやって、デジタルでも集めて、両方やっています。

事務局(片岡)

シンプルにスタンプ好きな人ですね。ちなみにどうですか、デジタルとアナログだったら、デジタルの方が良いという方はどのくらい、いらっしゃるんですか。どちらでも良いということですか。

事務局(浅井)

アナログはスタンプ帳を持ってくるのを忘れてしまうと、すごくがっかりしてしまうことがあります。

事務局(片岡)

なるほど。ありがとうございます。やはり今後リアルにするのか、デジタルにするのか絶対論争が出るので、貴重なご意見をありがとうございます。

反町委員

一言だけ言ってもよろしいでしょうか。私は仕事柄、結構、スタンプラリーをやるのですが。

やはり色々やった結果、リアルの方が良いと感じています。デジタルで良くないなと思う時があります。家族でスタンプラリーを回る時、基本はスマホですよ。子どもが、お母さんやお父さんのスマホでしかできない。そこが少し辛いなと思う時があり、大きいイベントの時ほど感じます。以上です。

事務局（片岡）

確かに。ありがとうございます。

事務局（浅井）

エキタグは駅にデジタルスタンプを押せる台があり、その台にはアナログのスタンプも置いてあるので、親はデジタルでピッと押し、子どもはそこに置いてある紙に押すというやり方も可能です。

反町委員

それなら良いですね。ハイブリッド方式は素晴らしいです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。この話題はかなり広がりそうですので、参考にさせていただきます。ありがとうございます。

それでは高田さん、お願いします。

高田委員

私はシールが良いと思います。例えば「川崎マイスターシール」のような、「シールを集めたら、あなたも川崎市マイスターになれる！」というイメージです。

今、私はパソコンにいろいろシールを貼っていますが、川崎市市制 100 周年のときにシールが配られていましたので、そういったイメージです。

それと、もう 1 つは、例えば川崎宿シール（東海道五十三次シール）。それもこんな可愛い感じで、昔、フロンターレの試合でもらったことがあります。私は 4 枚くらいしか貼っていませんが、会社では皆さん好きなシールを貼るのが流行っています。

この丸い形のシールですが、この大きさと形が流行っているのかなと思います。

それと今、子どもたちの間でシール交換が流行っていると思うので、たくさん色違いで作って、もう少し小さくて柔らかく可愛いものも良いのかなと思います。大人はこういうシンプルなものが、子どもたちは小さいものを喜ぶと思うので、その流行に乗るのも良いかなと思いました。それがシールのお話です。

それから、配布資料にある 8 番の「ポストカード・トレーディングカード」に近いのですが、宮前区でこの前、「みやまえカルタ」に友達と参加したのですが、ホームページにも掲載されていて勉強になりました。アナログで盛り上がったので、そういうものが川崎市（全域）版でつくると、広く浅くなってしまうかもしれませんが、あると良いかなと思います。どうやって本に付けるのかという問題があるので、別送になるかもしれませんが、良いかなと思います。

最後に、9 番の「《デジタル》ダウンロードコンテンツ（記事、音声、動画、地図）」に近いのですが、デジタルで川崎市の 100 年の歴史の概要を音声で聞けると良いと思います。

QR コードをつけることなどで、Audible（編集注 オーディオブック 書籍をプロのナ

レーターが朗読した音声で聴ける、Amazon のオーディオブックサービス) のように音声で通勤途中や通学途中に聞けると、時短になりますし、情報が頭に入ってきます。以上です。

事務局 (片岡)

この音声コンテンツで聞けるのは川崎の歴史ですか？

高田委員

私は川崎市の歴史の概要や流れのような、100 年間でギュッと (まとめたものです)。音声にする場合は、概要のみになってしまうと思いますが、詳細は本を読むという (形式が良いかと思います)。

事務局 (片岡)

なるほどですね。理解しました。

高田委員

(内容は) 少し詰める必要があると思います。

事務局 (片岡)

でも、美術館等で声優さん等が説明していくコンテンツも良いですね。

高田委員

そうですね。本当はそれが川崎市の有名人等を選べると、なお良いのかなと思います。

事務局 (片岡)

確かに良いですね。

高田委員

Audible は、この人の話し方がフィットしないな、入ってこないなと感ずることがあります。いくつかの声を選べるようにすると良いと思います。アニメの声優とかいと良いのかもしれないですね。

事務局 (片岡)

そうですね。声優を選べる。そういえば、はま寿司 (のタッチパネルのナレーション) も選べましたね。ありがとうございます。

そして、ぶにぶにのシールについて、一つ面白いなと思ったのが、時流に乗るパターンのノベルティは、たぶん今まで出ていないと思います。

時流に乗るといのは、確かにネガティブに考えると「その時だけだよ」という考え方かもしれませんが、100 年後に見た時に「ぶにぶにのシール、なぜ付いているの？」という発想になると思うのです。それが逆に、時流に乗って売上も上がるし、当時を振り返れるという面白さもあっても良いのかなと思います。

高田委員

シール帳の流行も何度か巡っていると思いますので、大人と子どもの両方が楽しみ

ると思います。

年代を超えて楽しめるのではないかと思いました。

事務局（片岡）

シール帳の流行が1年後に終わっていないと良いですね。でも、その時はその時で、また新しい時流を取り入れれば良いですよ。ありがとうございます。それでは、続いて望月さん、お願いします。

望月委員

あまり新しいことは考えられないので、ごく当たり前ですが、クリアファイルやポストカードの類になるかと思えます。では、どんなクリアファイルやポストカードの画像を使うのかというと、この本自体が市制100年で編纂されるわけですので、川崎市が誕生した大正13年に、川崎市役所がその祝賀会で配布したポストカード、絵葉書が5枚セットであるのです。

初代の市役所、東海道の昔の街並み、川崎大師、稲毛神社、現在の幸市民館にあった戸手浄水場が5枚セットであるので、それをポストカードの復刻版のような形で出しても良いのかなと思います。

あるいは、クリアファイルの画像もそういったものを使うというのも、市制100年の記念としての特典としては良いのではないかと。ノスタルジックな感じもするの、興味を引くのではないかという気がします。

合わせて、デジタルで、先ほど地図の話がありましたが、大正13年当時の川崎市といっても、結局、2町1村の中にあつた狭い範囲なのですが、その地図があるのです。結構、ディテールが細かく、大きなものなので、むしろデジタルでダウンロードして、自分で拡大しながら見るほうが良いのかなと思います。ですから、QRコード等を付けて、それでダウンロードできるようにするのも一つの特典になるのではないかと思いました。

もう1点、私のような年寄りで目が悪い人には（良いのですが）、しおりのところにプラスチックの拡大鏡が付いているものがあります。本の字やフォントの大きさ、ディテールなどはまだ分かりませんが、手に取って見たいと思う人は、高齢の方にも多いと思いますので、そういう時にこのようなちょっとしたツールがあると便利だと思います。実際、私はそういう便利なものがあると良いなと思っています。

そういったアイデアを思いつきました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。特典は1種類でなくても可能でしょうか。例えばA、B、C（向けにそれぞれ用意する）ではないですが。

事務局（浅井）

配分をどうするかが難しいのです。子ども向け、大人向け、シニア向けとご用意し

た場合、1,000個、1,000個、1,000個ずつ用意するので良いか、2,500個、500個、500個なのかというところが非常に難しいです。ですが、この本は幅広い世代を対象としていることを考えると、特典も誰かしか喜ばないものがあるべき姿ではないというご意見が、この懇談会でも出ているかと思います。ですから、複数の種類があった方が良いというご意見も良い考えだと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。それでは、続いてにしにし家さんをお願いします。

にしにし家委員

もう既に出されていたのですが、やはりスタンプラリーは面白いかなと思っています。近所の祭りやイベントなどでも、商店街のイベントなどでも、やはり家族連れですごく賑わっているのは間違いないので、スタンプラリーは良いなと思いました。

デジタルでもアナログでもどちらでも良い感じで、どちらでも盛り上がっていました。でもやはりアナログの方は、子どもが押せるのを楽しそうにしているように見えました。そして、かなり並んでいましたので。先程、スタンプラリーをやると誰かしらは来るというのをおっしゃっていたので、良いなと思っています。

基本的に物品類って、邪魔だなと思うことが多くて、あまり買いたいなとは思わないのですが、さすがにドラえもんとかだったら、人気は出るのかなと思います。

多摩区には藤子・F・不二雄ミュージアムがあって、ドラえもんくらい人気なものだったら、ちょっと欲しいと思う人はいるかなというのと、あと、デジタルダウンロードコンテンツで、人物史のインタビューなどの動画があっても良いのかなと思いました。

インタビューすることは決まっているので、動画や音声だけでも撮って、ダウンロードして動画で見られるようになっていて、良いかなと思います。あとは、「川崎市の歴史を音声で」という話があったと思いますが、それも良いなと思いました。

私、通勤で片道1時間くらい、結構時間がかかったりするのですが、そういう時に2時間の動画とかを2倍速で聞いたりします。ですので、むしろ川崎市の歴史を3時間とか、ものすごいボリュームでも、意外と今は倍速で聞いてくれる人はいると思います。数時間とかでも。本当に川崎の歴史を全部詰め込んだ、みたいなものと、逆に聞きたくなるかもしれません。

クーポン類も間違いないと思いますが、川崎市との既存施設との協力の場合、そもそも安いので、あまりどちらもウィンウィンではないかもしれないです。そもそも安いところが安くなっても、だから行きたいとはならないのかもしれないなと思いました。

あと、体験型は前回も話題に出ていたと思うのですが、川崎市の過去の写真、有名な建物ができたばかりの頃と現代の写真の対比の写真展など、そういう体験型を有料

イベントでやって、本を買った人は無料で入れるとか、そういうのはありかなと思いました。問題として、こういう本の付録でイベントを開催したとしても、それだけでは来る人は少ないと思うので、そもそも有料イベントとして実施し、入場無料券のような感じにしても良いのかと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

確かにそうですね。「そもそも安いので、(安くなっても行きたいと思わない)」ということ、結構ありますよね。今思ったのは、例えば写真展に無料で入れるとかもあって、最終的に行ったら完成するみたいな、デアゴスティーニ形式ではないですが、最後の1ピースはそこ（現地）にしかない、というのを付けておくとすごく良いと思います。

にしにし家委員

そうですね。でも今回の話を聞いて、特典で本を買ったことがあるのは、それこそデアゴスティーニくらいしかないと思いました。

事務局（片岡）

そうですね。ずっと買わせますからね。ありがとうございます。ここをうまく考えたいと思います。長尺って、3時間とかですか。さすがに、24時間とかになると（見る人少ないですね）。

にしにし家委員

そうですね。3時間とか4時間とか。

事務局（片岡）

なるほど。3から4時間。ありがとうございます。それでは大島さん、お願いします。

大島委員

物品では、本でかなり色々な市内の写真等を使うと思うので、それを使ってトランプを作り、七並べをすると、写真がずらっと並ぶ感じになります。それだと家族など広い世代で遊んだりもできると思います。どうやって本につけるのか、分かりませんが、後から送るという方法でも良いのかなと思います。ハガキのようなものを初版の時にに入れておいて、ハガキを送ると、それが届くという仕組みも良いかなと思います。

それで、同じようにハガキを入れておいて、体験型でバスツアーのように、その施設を見に行くとか、行った先で話を聞くとか、そういうことを企画すると、夏休みなどに親子で参加できたり、もちろん土日であれば一般の大人の方も参加できたりするのかなと思います。これは予算のことは全然分かりませんので、適当に考えてしまいましたが、そのようなことを考えました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。確かに、写真でトランプを作るのは良いですね。ジャック、クイーン、キングは誰が担当するのでしょうか。市長がキングでしょうか。そういうわけではないですね。これも一つ、学びながら遊べるという点がとても良いと思いましたので、ぜひ検討していただきたいです。ありがとうございます。続いて、中村さんお願いします。

中村委員

もう本当に被っていますが、今まで買ってしまった本の付録は、その時限定のタオルや、もちろんシールもありましたし、ポストカードもありました。実は私もカルタやトランプの付録を買ったことがありました。本に少し厚紙のものがついていて、点線が入っていて、自分で切り離すのを、何回も買ったことがあります。そこにキャラクターなどが描かれていたら、なおさらです。でも、せっかくなら本の内容が良いかなと思います。

物品といいますか、先ほどの航空写真などもとても良いなと思いつつも、確かに川崎市内でもすごく小さくなってしまったり、麻生区なんて見えなくなってしまうかとも思い、ダウンロードできるようにしたり、私自身、飾るものとしてカレンダーを年間ずっと飾っているので、ダウンロードした時に、その年やカレンダーを右下などに付けられたら、またはダウンロードして月を付けられる形式でも良いかなと思います。

カレンダーですと、意外と子どももずっと見ているので、ダウンロード形式でデータでもできるなら、そういうのも面白いかなと思いつつ、私も航空写真、川崎の航空写真を持ったことがないので、少し欲しいなとも思っています。

私は「こういうのがあったら良いな」と毎回言ってしまうのですが、下敷きはずっと欲しいと思っています。初回からずっと言っているので、「毎回言っているな」と言われてしまうかもしれませんが。

あとは、体験型としてのスタンプラリーですが、大阪万博に行った時も、リアルとデジタルの融合で両方やっていました。リアルの人だけが有料で700円くらいの特別感のあるスタンプラリーの台紙を首から下げて、海外の方もみんなリアルでずっと押して回っていました。各国で（スタンプを集めると）、すごい達成感だったと思うので、デジタルが好きな世代もいると思うので、デジタルでも予算の範囲内なら良いかなと思いつつ、やはりその達成感や、その時の特典がスタンプラリーのアイテムになると、きっと皆さん「その時のもの」として残るのだろうかと、万博で買った人はそれが宝物になっているのだろうかとすごく思いました。

クーポンについてですが、私、去年の7月から自分のカフェを持つようになりまして、川崎市史の本を持って来てくれたら嬉しいなと思いました。割引もしたいです。

うちは麻生区で、本当に商店街がほとんどなくて商店会ばかりですが、もし任意で手を挙げられるなら、自分も川崎市の店の一つとして協力できたらと思います。

「なんで本を買ってくれたのですか？」と聞いてしまうかもしれませんが、協力したいです。普通の本ではなく、川崎市が作った本であって、思い出がたくさんあって、それがうまく伝われば、各区で盛り上がり、川崎区に負けないように麻生区も頑張れたらなと思います。そして、多摩区にはにしにし家さんがいますので。

川崎市全体を盛り上げることは、100周年で終わってしまったのかという気持ちが最近強く感じます。「+2年」とやっているのは私たちだけだなと思っていて、今日も「ちょっと行ってきます。川崎市史、100周年の歴史の本を作っているのだけ」と言ったら、「え、100周年は終わったよね」とすごく言われてしまいます。

「でも、今みんな頑張っていて、次が3年目でもういよいよ完成するのです」と自分だけがずっと言っていて、本当に一人で普及活動をしています、とても終わった感じが強くあります。

事務局（浅井）

この市史の活動がひそやかすぎますね。

中村委員

でも、こんなに全体を盛り上げて、お祝いみたいにしてるとしたら、このクーポンでまた、お得ばかりになってしまうかもしれませんが、本を手を持って街を歩いてくれるきっかけになると素敵だなと思いました。ですので、割引クーポンは、ちゃんと思いさえ伝われば、できたら良いなという希望ではあります。

100周年を忘れないために、クーポンがある程度あると嬉しいなという思いがあります。

事務局（片岡）

ありがとうございます。今お話を伺って思ったのは、あくまでクーポンでお得になるというのは、その人がもらえるベネフィットや利益的なことだけであって、多分その過程にあるのは、きっかけをどう提供できるかが、我々ができることなのではないでしょうか。

そう思った時に、街を歩くきっかけをしっかりと提供し、そのために何もないのであれば行かないから、店を渡り歩けるクーポンがある、みたいな発想ができると良いのかなと思います。

逆に店舗さんに、クーポンで集客ができるので、ぜひやってくださいというよりは、「街を歩いてもらうきっかけを一緒に作りましょうよ」といった普及活動で、反町さんのような方にもいろいろご協力いただいて、2,000店舗を目指していければ良いかもしれませんね。

中村委員

割引だけじゃないのではないかと思います。その店のオリジナルシールをもらえる、などでも特典になると思います。

事務局（片岡）

確かにそうですね。こうやって融合していくと良いですね。もらえるとうれしいものは、お金だけじゃないですね。ありがとうございます。

それでは、少しオンライン参加の方に移らせていただきます。阿久津さん、よろしいでしょうか。

阿久津委員

心が動いた景品みたいなものがあつたかというお話があつたかと思うのですが、最近、表参道を歩いていてチャンネルのイベントがあり、そこでゲームに参加してクリアしていくと、誰でも簡単にクリアできるゲームですが、クリアするとキーホルダーがもらえて、それにスマホを当てるとチャンネルのそのキャンペーンにちなんだ音楽が流れるというものでした。それはすごくもらって嬉しかったですし、心が動きました。

それとは別に、今回のこの特典についてですが、本とのリンクがすごく大事だと思って、皆さんが川崎にちなんだという話をされていまして、私も川崎にちなんだものが良いなと思ったのですが。

自分がもらって一番嬉しいものは何かと考えたとき、クリアファイルがすごく嬉しいです。それは使えるのももちろんですが、記念でもらったクリアファイルは意外と結構こだわっているものが多くて、デザインも様々です。打ち合わせなどの時に「あ、そのクリアファイル私も持っている」と話題になったり、盛り上がるネタにもなったりしますが、その中でもどんなデザインにするかという点で、先程お話にあつた航空写真なども面白いなと思いました。

あとは、復刻という言葉が、今、結構流行っていて。飲み物などでも復刻デザインの缶ジュースなどがあると思うのですが、そのような感じで川崎にちなんだ、例えば復刻の何かポスター「昔こんなポスターが貼られていました」というものがあつても面白いかなと思いました。

あとは、クーポンですが期限などの問題で難しいかなと思いましたが、「かわさき推しメシ」グランプリというのを毎年で開催していると思います。全部は難しくても、上位何店舗かに協力してもらってクーポンをつけるというのは面白いかなと思います。いろいろな取り組みと一緒にできるというのは良いのかなと思います。

先ほどカルタのお話もあつたかと思いますが、カルタもすごく面白いなと思って、「川崎あるある」みたいな感じで、川崎の人が見たら「あ、あるよね」と思うような、そういうカルタがあつても面白いかなと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに、「川崎あるある」というのは難しいですね。
今、どんなイメージが出ていましたか？

高田委員

例えば、川崎市民の歌をごみ収集の音楽だと思っていることでしょうか。市制 60
周年の歌を、ごみ収集の歌だと思っている人がいるようです。

事務局（片岡）

確かに、そういう「あるある」を探したら、たくさんあるのでしょうか。いつか
「あるあるの会」をお願いします。

阿久津委員

たくさんあると思います。

事務局（片岡）

本当ですか。それ1つのあるあるで川崎の愛着が分かってくる。ありがとうございます
ます。ちなみにクリアファイルは、たくさん集めていますか。

阿久津委員

そうですね。集めているというか、集まってくる感じですね。

事務局（片岡）

確かに。いくらあっても困らないです。

ありがとうございます。もし今後、「このクリアファイルは、すごくはまって面白か
ったよ」というような事例がありましたら、写真などを送っていただけるとすごく嬉
しいです。

阿久津委員

はい、分かりました。

事務局（片岡）

お願いします。続きまして、嶋田さんお願いします。

嶋田委員

この特典なのですが、まず一つ言えるのは、買ってもらうための動機付けだと思
いますが、普通の特典と一つ違うのは、例えばドリンクだとか複数のブランドがあっ
て、その中から一つ選んでもらうための差別化要因ということではないと思うので
す。

何かおまけみたいなのが付いているから、こっちとこっちで同じ金額だったらこっ
ちを買おう、という選択肢のものではないので、そこは違うなと思いました。です
ので、もっと特典として強力な、買うためのモチベーションや動機付けになるよう
なものの方が良いのかなという気がしました。

これを買ってくれる人は、川崎に興味を持っている方で、その方の気持ちをより高

めるようなものが良いかなというところと、予算を小分けにして小さくなってしまふよりも、大きくドンとあるものの方が良いなと思いました。

そうすると、グッズよりもイベントなど、そういうものの方が良いのかなと思いました。

一つ思ったのは、川崎市で特別感ということで行くと、僕は普段入れないような川崎の施設の中に入れるという特典が付いていると、今回の本の内容とも近いですし、良いかなと思います。

例えば、川崎市の市長の部屋を見学できる権利とか。あとは、たくさんの人を一度に集めるのであれば、市議会の会議室、あそこに入ったことがないので入ってみたいとか。子どもがいるなら、子どもと一緒に試してみたい、議員の席に座るとか、抽選で当たった人は議長の席に座れるとか、そういう特典があると嬉しいとか。

あとスタンプラリーですと、スタンプラリーというよりも、市内の市が経営しているような施設なら、VIPパスのようなものがもらえた方が嬉しいなと思いました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。おっしゃる通りですね。比較というよりも、やはり特典が付いているから興味を持って買おうと思う部分がすごく大きかなと思います。市長室に入れるかは、ちょっと一回（確認が必要ですね）。

嶋田委員

でも、普段入れない場所に入れるというのは、良いですね。

今、市民ミュージアムはお休みですが、市民ミュージアムの倉庫を少し覗いて見られるのも嬉しいですし、フロンターレや等々力競技場の控室も、入ってみたいけれど普段入れないので、そういった場所を見学できたら、とても嬉しいと思います。

事務局（浅井）

公文書館の書庫も、檻の中に古地図とかあります。

事務局（堀切）

おっしゃっていただいた川崎市議会の議長席や、委員会室などを見学する催しとして、毎年、夏休み子ども議場見学会を議会で実施しています。毎回非常に集まりが良く、子どもたちはそのようなものに対し興味を持つ時期があるのかなと思いますので、誘引になるのは確かだと感じました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。続きまして、竹内さん、お願いします。

竹内委員

これは歴史の本なので、未来につながるというコンセプトだと思うので、歴史あるいは未来に関するイベントが良いかなと思い、3つ、4つ考えてみました。

1つ目は地名ですが、各区にはいろいろな地名がたくさんあり、それぞれに歴史的

な由来や経緯があります。それから町名改正で町の名前も結構変わっています。高津区に地名研究所があるのですが、ご存知の方もいらっしゃるかもしれません。あの施設の方にお願ひして、例えば麻生区の方は川崎区の地名には興味がないでしょうか、各区に分けた講座のようなものを開いていただき、「この区はこの地名にはこういう歴史があった」「こういうふうに変わってきた」といった話をしてもらおうと、子どもも含めて面白いかなと。それとセットで、その後、何か所か実際にツアー形式で回ってみる、こういうイベントなら興味を持つ人も結構いるのではないかと思いました。

2つ目は、川崎市版のプラタモリのようなもので、以前にもお話したと思うのですが、例えば川崎区だったらチネチッタの辺りは戦前からの映画街なのです。その映画街の名残が、歩いていると残っていたりします。ですので、その辺に詳しい方にお願ひして、そういったところをツアーで回ってみる。そして、以前も話したように、昔の川の名残の道があり、それをずっとたどっていくと3、4年後にできるDeNAのアリーナにたどり着くのです。そうすると、過去から未来につながるストーリーが組めますし、少し行くと川崎宿、旧東海道もあり、これも面白いと思います。こういったことは多分区ごとにあると思いますので、そうしたテーマを探してイベントを開催するのはどうか、というのが一つ思ったことです。

もう一つは、川崎に浮世絵ギャラリーがあって、個人が持っていた膨大な浮世絵を寄贈されて、年間を通して展示会が開かれています。その収蔵品の中には川崎に関するものも結構あります。川崎宿だけではなく、多摩川などいろいろなものがあります。巡回展を区ごとに開催しているので、その巡回展に無料で行ける、というのもありかなと思いました。

最後は、少し個人的なこだわりでローカルネタですが、臨海部にありますJFEの高炉の跡地ですね、そこに液化水素の基地ができます。これは世界初の商用化に向けた液化水素基地なのですが、なぜそこにできるのかというと、京浜工業地帯は30年ほど前までは世界最大級の化学と鉄鋼の工業地帯でした。

今は見る影もありませんが、スカスカになって、工場や倉庫ばかりになっていますが、それでもいくつかは残っていて、水素に関する会社や技術が集積しています。そういうことがあって、あの場所に水素基地ができるということで、これは臨海部の歴史そのものです。そういうところを説明してもらいながら、水素基地の予定地までツアーを組んでいくと個人的には面白いかなと。ただそれだけだとあまり一般の方は来てくれないので、セットで川崎の工場夜景のツアーも付けるのはどうかと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。たくさんアイデアをいただき、ありがとうございます。

やはり総論として、イベントは貴重な体験を提供できるものとして良いのではないかと
いうことですね。地名は結構気になるものですね。

竹内委員

面白いと思いますよね。

事務局（片岡）

地名といいますか、この区の移り変わりというものがあるじゃないですか。最近ニュースで見えてびっくりしたのですが、JR大宮駅の東口と西口の駅構内の領土は、オフィシャルではないのですが、争って少しずつ変えることをイベントにしています。そのような「争い」をしているという話があります。綱引きで勝ったら、毎年数メートルずつずれるのだそうです。そういった意外と区ごとの対決みたいなものを最終的に巻き込んでいけると、参加型で面白いかないかと思いました。ありがとうございます。

それでは最後に、羽賀さんお願いします。

羽賀委員

私は、まず自分が買ってしまったものが、物品でクリアファイルなのですが、生田緑地でスタンプラリーをやっていて、毎年ドラえもんのクリアファイルを無料でもらえるのです。毎年デザインが変わるので、それにすごく釣られてやっけてしまいます。やはりデザインにもよると思うのですが、キャラクターものが強いなと思いました。

事務局（浅井）

スタンプラリーの景品がクリアファイルですか？

羽賀委員

そうです。必ず何個かスタンプを押せばもらえる、という仕組みです。

あとは、皆さんもおっしゃっていたように、やはり本と連動したり、何か歩きたくなるコンテンツみたいなものが良いのかなと思っています。スタンプラリーもそうですが、あとは写真と連動するものもあるかなと思います。物品の中でアクリルキーホルダーとか、ポストカードやフォトフレームなどのものがあると、本に「このスポットでこれを持って撮ってみて」と書いてあったりするのも良いなど。

例えばポストカードで、先ほど昔の写真があるという話が出ていたと思うのですが、その場所に行って同じ構図で撮ってみると、昔の風景と今の風景がつながる、という体験ができるとすごく面白いのではないかと思います。

その内容としても、「100年後に残していこう」みたいなキャンペーンではないですが、そういったものをやると本の内容ともつながるのではないかと思います。

最後の3つ目の体験型のところで、クイズ大会というものもすごく気になっています。最近クイズが好きな若い人も多い気がしますし、クイズブームのようなものがあります。そして、小さい子から大人までいろいろな年代の方が楽しめるのではない

かと思い、これをイベントとしてやるのはすごく面白そうだと思います。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。要約しますと、実物とAR（編集注 拡張現実のこと、現実空間に情報を重ねて体験を拡張する技術）を組み合わせ、現地に行ったときに使う、みたいなことは確かに、面白そうですね。

100年後にまた同じ構図で写真を撮るとというのが流行ってほしいです。おじいさんたちがまた集まって、「50年後に撮ってみてください」みたいなことができると良いかなと思います。

本当に様々なご意見をいただきつつ、やはり共通して出てくるのは、先ほどのクリアファイルとか、こういった物で、やはり総論として「こういうものが良いよね」といった、「(特典として)付けられるものって大体これが定番だよ」というところはあるつつ、やはりその中でいかにコンテンツとして川崎のオリジナリティをしっかりと出していけるか、というところと、意外と大事なのは体験型との接着というところができること、やはり川崎市が出しているものとして強みが出てくるのかな、というのは今マッピングして感じてるところですので、ぜひこの内容をもとに「どういったものが良いか」をいろいろ参考にさせていただいて、検討を進めていきたいなと思います。

珍しく時間通りに進んでおります。そうしましたら、次の議題について説明をお願いします。

（次第一3） 「人物史」の取材進捗について

事務局（浅井）

貴重なご意見をありがとうございます。実現可能性や、クリアファイルの中身に何を掲載させるかという点が一番悩ましいところかと思っておりますので、次回以降、また紙面の中身をご覧いただき、ご意見もいただきながら、いろいろと考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

次の議題は、こちらの「人物史の進捗について」です。堀切よりメールでご報告いたしました。現在こちらの10名の方に人物史ということで、ご本人の活動を通じて川崎市の歴史や物事の移り変わりを浮き彫りにしようという取材を進めております。

石渡さまと加藤さまについては、夏休みに小学生記者が取材を行い、現在は原稿執筆の段階に入っています。また、安藤さまについては、武蔵小杉の移り変わりについての取材も済んでおり、残りの方も順次、取材の打診や、打診した結果、快諾いただき、取材の日取りや撮影場所の打ち合わせを進めているところです。間もなく皆さま

の内諾を取るのは終わるところですので、そうしましたら、「この面々で紙面を制作していきます」という報告ができます。

カテゴリとしては、「漁業、農業、ものづくり」、「伝統文化」、「地域史、伝承、風習」、「自然」や「まちの移り変わり」について語っていただく方といった形で、各区から少なくとも一名は入るようにしております。このような形で現在進めております。ありがとうございます。

(次第一４) 次回への議題提示

(次第一５) 総括／次回案内

事務局（浅井）

第9回の編集懇談会は、年度が明けて4月を予定しております。4月の最終週である22日、23日、24日のいずれかを希望日として、もし揃わないようでしたら、前週の15日、16日、17日も候補に入れ、ご予約を伺いたいと思います。年度が変わり、ご予約が不透明な部分もあるかと思いますが、ご回答の程よろしくお願いいたします。

次回の議題ですが、本日は8回目で、「書籍の購入特典について」アイデアをいただきました。次回の4月と7月の2回は「記念市史の先読み」ということで、現在レイアウトや文章、写真が入った紙面が出来上がりつつありますので、その中から何ページかを抜粋してお示しし、ご意見をいただきたいと考えています。

最後に、令和8年度にもワークショップを予定しております。このワークショップは3か年計画の中で、それぞれ年度ごとにテーマがあり、令和6年度は「本の内容を考える」ワークショップ、令和7年度は市民記者になってコンテンツを実際に作ってみるワークショップということで小学生の参加がありました。そして令和8年度は「PRの1年」として位置付けているので、そのPRをテーマにしたワークショップなのですが、今この懇談会でいろいろな「このようなPR方法が良いのではないか」というアイデアをいただいて、今日も特典もそういったPRの一環になるのですが。

このワークショップでは実際にそのPRツールやPR動画、PRプランなどを考えてもらい、それを作り込んだものをコンテストのような形で審査し、実際にグランプリになった方を実現までしようというところを見据え、市民の方を募集しようと思っています。

こういったPRに関心がある方や、自分のスキルやアイデアを試してみたいという方がお近くにいらっしゃったら、これはお一人ずつではなく、3、4人ぐらいのチームで応募してもらおうと思っています。心当たりの方がいればぜひ教えていただきたいですし、こちらからも「良い人がいないか」お聞きしたいと思っています。

もちろん公募枠もありますので、市政だよりで広く「こういうことをします。自分のアイデアを実現できるかもしれません。」というところで募集していきたいと思っ

ていますので、よろしく申し上げます。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。最後の話題はご質問とかは受けなくて大丈夫ですか。

事務局（浅井）

そうですね。皆さまお聞きしたいことがあれば、ぜひ。ご質問は大丈夫でしょうか。

事務局（片岡）

よろしいですかね。恐らく、8回目にして初めて時間通りに終わるという奇跡が起きました。ありがとうございます。本当に、いろいろなご意見をいただけたと思いますので、また次回に向けて頑張っていきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

委員一同

ありがとうございました。

以上